

第2回 若手プロジェクトリーダー研修 11期生プログラム概要

研修のねらい

【通年】

- ・事業やプロジェクトの目標達成に向けた適切な戦略を策定できる
- ・事業・プロジェクト推進上の課題を特定し、適切なアクションを検討できる

【本研修】

テーマ:NPO マネジメントの実践～事業モデルとファンドレイジング、評価、チームビルディング

- ・NPO マネジメントの実践における難しさと困難を乗り越えるためのポイントを理解する
- ・事業や活動、プロジェクトの目標や取組みテーマに向けた PDCA サイクルを理解し実践できるようになる。
- ・事業モデルとファンドレイジング、評価や指標設定の考え方と手法を理解し、実践に活用できるようになる。
- ・参加者間の共有と学び合いから、相互のエンパワメントにつなげ、実践内容をブラッシュアップする

期待する効果

- ・事業やプロジェクトの目標や取組みテーマに向けた PDCA サイクルを理解し、目標やテーマ設定に加えて、第2回研修では、その進捗状況を把握するための「指標」とその「管理方法（マネジメント方法）」について学び、自団体の事業やプロジェクト、そして組織運営における「指標」設定を検討し、試行することで、効果的な PDCA サイクルを回すことができるようになる。
- ・「指標」を団体内や事業・プロジェクト関係者と共有することで、チームとして PDCA サイクルを回していくこと、互いの協力や創意工夫等がより効果的にできるようになる。
- ・PDCA サイクルの Plan の前提にある「事業モデル」を理解し、受益者や協力者、関係者に対する価値提供と参加・協力、財源と収支の考え方について再確認ができ、「再現性／持続的な」事業運営ができるようになる。
- ・参加者相互の実践の進捗状況の共有や他者からの「学び・気づき」、相互の学び合いからモチベーションの向上と自身の実践に活用できるヒントを得ることができる。

研修スケジュール

10/9(木)[1日目]		
10:00～10:05	開会・事務連絡	地球環境基金
10:05～10:20	研修の目的とゴール、流れの説明	
10:20～10:40	チェックイン： 中間共有後の状況、本研修に期待すること	河合 将生氏
10:40～12:00	講義「NPO マネジメントと困難とチャレンジ」とミニワーク、ディスカッション	
12:00～13:00	昼食	
13:00～14:30	講義「事業モデル」「ファンドレイジング(概論)」とミニワーク、ディスカッション	
14:30～16:00	講義「評価と指標設定」とミニワーク、ディスカッション	河合 将生氏
16:00～16:25	チェックアウト：本日の研修内容の振り返り	
16:25～16:30	事務連絡	地球環境基金
16:30	終了	

10/10(金)[2日目]		
9:30～9:35	開始・事務連絡	地球環境基金
9:35～10:00	チェックイン： 1日目の振り返り、2日目に期待すること	
10:00～11:00	「事業モデル」「ファンドレイジング」「評価と指標設定」についてフォローアップ	河合 将生氏
11:00～12:00	個人ワークと相互フィードバック、質疑応答、個別相談、ディスカッション	
12:00～13:00	昼食	
13:00～15:15	個人ワーク、発表と相互フィードバック、個別相談(続き)	
15:15～15:30	休憩	河合 将生氏
15:30～15:55	チェックアウト：2日間の振り返り、今後に向けて一言	
15:55～16:00	事務連絡	地球環境基金
16:00	終了	

11期生研修 メンター

河合 将生 氏 ／ NPO 組織基盤強化コンサルタント office musubime 代表

2011年7月、office musubime（オフィス ムスビメ）を設立。伴走支援を専門としながらNPOの組織基盤強化、組織診断・評価、ファンドレイジング支援、プロジェクト運営・協働コーディネート・ファシリテート等の役割を担う。

NPOの伴走支援は、助成金等を活用した外部／第三者のコンサルタントとしての関わりから、団体の個別支援、外部理事や監事、アドバイザーとしての関わりもあり、コミュニティ財団や中間支援組織、フリースクールや子ども支援・子育て支援、まちづくり、国際協力分野のNPOなど、複数のNPOに役員として参画している。また、寄付アドバイザーとして、寄付先の選び方や寄付を募集している団体・活動と寄付者をつなぐウェブページへのコメント執筆やメディア等の取材対応なども行っている。その他、日本ファンドレイジング協会関西チャプター共同代表／認定講師、日本評価学会認定「評価士」。大学の非常勤講師として「NPO・NGO論」「ボランティア論」「国際教育援助論・平和構築論」「SDGs論」「脱炭素社会論」などを担当している。

